

学校紹介

(1) 地域の様子

本校のある下北山村は、東西 11km、南北 15km、面積 133.5 km²で奈良県南端の紀伊山地南東斜面に位置し、美しい豊かな自然に囲まれた山間地である。三重・和歌山の両県に接している太平洋にも近く、温暖な気候で積雪はほとんどない。しかし、年間雨量平均が 4000mm という日本を代表する多雨地域であり、天候によっては道路が閉鎖される（雨量規制；多雨による崩土の危険が予測される時は通行を規制する）など道路事情が悪く、外部との交流に支障をきたす場合もある。

村の人口は令和 2 年 3 月 31 日現在で 877(男 399,女 478)人、世帯数 550 戸と、過疎化、少子高齢化が進み、以前の中心的産業の林業は長く不振を極め、最近では観光立村を目指している。村には豊かな自然や温泉、村営ゴルフ場、スポーツ公園、池原ダムでのブラックバスフィッシング等があり、積極的に観光開発に努めている。また、ユネスコ世界文化遺産に登録された大峯奥駈道は村内を通っており、「続日本百名山」にも選ばれた『釈迦ヶ岳』は、大峯奥駈道の心臓部とも呼ばれている。大峯奥駈道から熊野古道へも歩を進めることもでき、新たな観光資源となっている。

(2) 生徒の様子

本校は昭和 39 年に村内にあった 3 中学校が統合して創設され、全盛期には生徒数が 300 人を超えていたが、現在は 12 名。今後は一層少子化が進み、近い将来は 10 名を下回るという小規模校になると考えられる。登下校については徒歩通学が 9 名と村内を 1 周するスクールバスによる通学が 3 名である。

恵まれた自然環境の山村で育っているため、人懐こく、明るく純朴な生徒が多い。与えられたことや決められたことなどについては真面目に取り組むことができるが、少人数のため、全体的に自主性に乏しい面がある。また、保育所からずっと同じメンバーのため互いのことをよく知っており、敢えて言葉に出さなくてもわかり合える環境で長く生活しているため、コミュニケーション能力に不安を感じる部分がある。卒業後は全員が高校へ進学するが、自宅を離れての自立生活を余儀なくされる。新しい環境に適応できる力を身につけさせるために、保育所・小学校・中学校が連携し、「中学卒業までにつけたい力」という同じ目標に向かって発達段階に応じた教育にあたっている。

(3) 生徒数・大字別生徒数（令和 2 年 4 月 1 日現在）

生徒数（人）

	1 年	2 年	3 年	計
男	0	4	1	5
女	0	4	3	7
計	0	8	4	12

大字別生徒数（人）

字名	1 年	2 年	3 年	計
上桑原	0	0	0	0
下桑原	0	1	0	1
池峰	0	2	0	2
寺垣内	0	0	0	0
上池原	0	1	3	4
下池原	0	4	1	5
計	0	8	4	12

令和 2 年度以降の生徒数推移（人）

年度	1 年	2 年	3 年	計
2	0	8	4	12
3	3	0	8	11
4	2	3	0	5
5	4	2	3	9
6	5	4	2	11
7	2	5	4	11
8	3	2	5	10

※昨年度の進路状況

県内国公立高校	2
県内私立高校	0
県外国公立高校	0
県外私立高校	1